

6月6日 リスクアセスメント表

2011年6月6日

	もともとの発生率または報告数:地域(1)、全国(2)	ワクチン接種率:地域(1)、全国(2)	地域・避難所で流行する可能性 1 = 低; 2 = 中; 3 = 高	公衆衛生上の重要性(罹患率・死亡率・社会的) 1 = 低; 2 = 中; 3 = 高	リスク評価 1 = 低リスク; 2 = 中リスク; 3 = 高リスク	コメント
水系/食品媒介感染症						
急性下痢症			3	2	3	避難所にてノロウイルス感染症などの集団発生が報告されている。
細菌性腸管感染症(サルモネラ、キャンピロバクター、病原性大腸菌など)			2	2	2	気温の上昇と共にリスクが高まっていると考えられ、避難者個人の衛生対策強化および各避難所(炊き出し等のボランティアを含む)における食品衛生上の注意強化が必要である。
A型肝炎			1	2	1	
E型肝炎			1	2	1	
動物/昆虫/ダニ媒介感染症						
レプトスピラ症			1	2	1	淡水、土壌曝露時に発症しうる。
ツツガムシ病			2	2	2	春～初夏と秋～初冬の2回ピークがある。野外活動に伴って感染し、3月下旬以降、東北地方の複数の県で発症例が報告されている。
過密状態に伴う感染症						
急性呼吸器感染症			3	2	3	高齢者を中心に避難所からの報告は多い。病原体は多様と考えられる。
インフルエンザ/インフルエンザ様疾患			2	2	2	避難所での発生が少数ながら散見されていたが、東北地方の活動性は引き続き低下傾向にある。
結核**			2	2	2	避難所に居た高齢者で発症例が報告されている。
ワクチンで防ぐことのできる感染症						
麻疹			3	3	3	首都圏を中心に第15週以降、麻疹の報告数が増加し、例年よりも多い値で推移している。麻疹は非常に高い感染力、重症度を有する。若年成人を含め2回の麻疹含有ワクチン接種を完了していないものは、避難所を訪問する前に接種歴を確認し、接種完了後に向かうようにすべきである。
風疹			3	1	2	首都圏を中心に風疹の報告数増加を認めており、避難所に持ち込まれるリスクは高まっている。
ムンプス			2	2	2	
水痘			2	2	2	避難所に居た小児で発症例が報告されている。
破傷風*			2	2	2	外傷後、土壌曝露後に発症しうる。発災に関連する新規発症者が認められなくなっている。
百日咳			2	2	2	
皮膚感染症						
疥癬			1	2	1	
白癬などの真菌感染症			2	1	1	
その他						
血液媒介疾患(B型肝炎/C型肝炎/HIV)			1	2	1	体液曝露時に感染しうる。
創傷関連感染症*			2	2	2	
細菌性髄膜炎、ウイルス性髄膜炎			1	2	1	

*救助やがれき撤去時においてもリスクが高い

**急性期以降に問題とならう